



学校での宮古語継承の課題に取り組む：

「一日一語みゃーくふつ」の言語実践報告

藤田ラウンド 幸世 Sachiyo Fujita-Round (Ph.D. in Education)

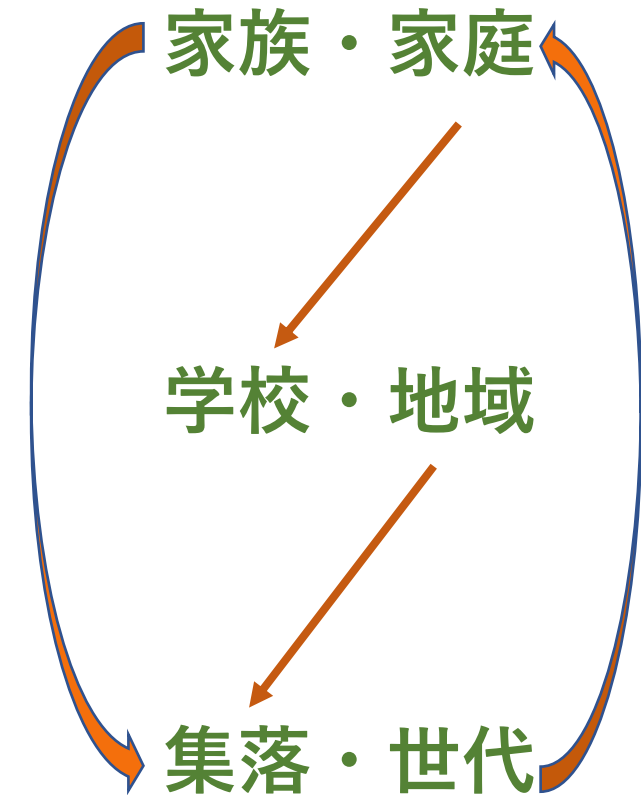
横浜市立大学客員研究員 Yokohama City University, Visiting research fellow

リソース・ウェブサイト「多言語で生きよう」：<https://fujitaround.com>



0.はじめに 研究者の立ち位置：藤田ラウンドの研究履歴

- **国際結婚家庭のバイリンガル教育**
 - 日本語と英語の国際結婚家庭のバイリンガル児、T
- **新宿区のマルティリンガリズム**
 - 韓国語と日本語の公立学校で第二言語としての日本語を身につけたバイリンガル児、ヨンジェくん
- **宮古島市のコミュニティ・バイリンガリズム**
 - 沖縄県宮古島市にある「久松集落」（コミュニティ）
 - の日本語と消滅危機言語と名指された宮古語の二言語使用



社会言語学、応用言語学、言語学の間を往還し続ける

言語学

文法記述、辞書制作、消滅危機言語の研究、書記言語開発

宮古語と次世代話者の教育

社会言語学

脱植民地主義、言語の多様性、言語とアイデンティティ、バイリンガリズム

応用言語学

言語と教育、教授法、バイリンガル教育、第一言語・第二言語・外国語教育、言語の再活性化教育

一日一語みゃーくふつ

1 言語継承を「学校」で行うということ



竹富島の民族資料館にある喜宝院蒐集館で撮影した方言札。資料館の方に伺ったところ、後から思い出して作られたという。

1.1 消滅危機言語から、言語継承へ

消滅危機という概念の動向：言語学・人類学の反応

- 1980年代に、言語学・文化人類学の研究者が先住民族の人たちの言語の「危機」に警鐘を鳴らす。
- 学術雑誌*Language*（1992）の「消滅危機言語」特集
 - 地球規模で進行する「言語の損失language loss（Hale, 1992）」
 - アラスカや北アメリカやオーストラリアの先住民たちの言語の80-90%が危機に瀕していると、世界各地の先住民たちの消滅の危機（Krauss, 1992）を論じた。
- 2000-2011年に現在の消滅危機言語研究の土台となる英語での著作が出版された（具体的な書名はAustin & Sallbank, 2014を参照）。

- 同時期に、世界中で迫害、差別がされた先住民の人権を守るための国際連合（国連）の決定があった。（cf. 国際連合教育科学文化機関＝ユネスコ）

1982年	国連に先住民作業部会
1993年	国連「国際先住民年」
1995年	国連「世界の先住民の国際10年」が制定（～2004年）
2001年	ユネスコの「文化の多様性を尊重する宣言」採択
2003年	ユネスコ危機言語部門報告書
2009年	ユネスコのウェブサイト上で「世界の危機言語地図」

（Austin & Sallabank 2011; Ishihara, Miyahira, van der Lubbe, & Heinrich, 2019; Moseley 2012; 木部 2019）

消滅危機言語とは何か：

ユネスコの世界の危機言語地図上の日本国内の消滅危機言語（2009）



1) 極めて深刻

- アイヌ語

2) 重大な危機

- 八重山語

- 与那国語

3) 危険

- 八丈語

- 奄美語

- 沖縄語

- 国頭語

- 宮古語

日本の消滅危機言語に関わる背景

1) 明治期からの日本の近代化と国家としての言語政策

明治期に、関東の東京山の手「ことば」を洗練させ、「標準語」として日本国内と日本国外の植民地で広める言語政策をとった。「標準語」である日本語に対して、地域方言や地域で使われていた話しことばは日本語の下に置かれた。1886年の学校令以降、学校教育の中で「標準語」を普及させた。学校では罰則として「**方言札**」を用い、「方言」を話さないように教育した。沖縄県は、1879年に日本に編入され、**学校教育を通して「標準語」**での教育が強化された。学校だけでなく、家庭や集落においても地域のことは使われなくなったという背景がある(Fujita-Round & Maher, 2017)

2) 沖縄県内の標準語励行運動

戦後、沖縄県はアメリカの支配下（1945-1972）に置かれた。皮肉なことに、アメリカの意図ではなく、**沖縄県の人々は**復帰後に合わせて自分の子どもたちが教育に遅れを取ってはいけないと学校の教員を中心とした大人たちは、自分たちの地域の言語ではなく、**日本語を選んだ**。学校内で「**標準語励行**」運動は強化され（Smits, 1999）、それぞれの集落で話されていた島の言語は、家庭内で継承されなくなった。（Ishihara, Miyahira, Lubbe & Heinrich, 2019; Fujita-Round, 2022）

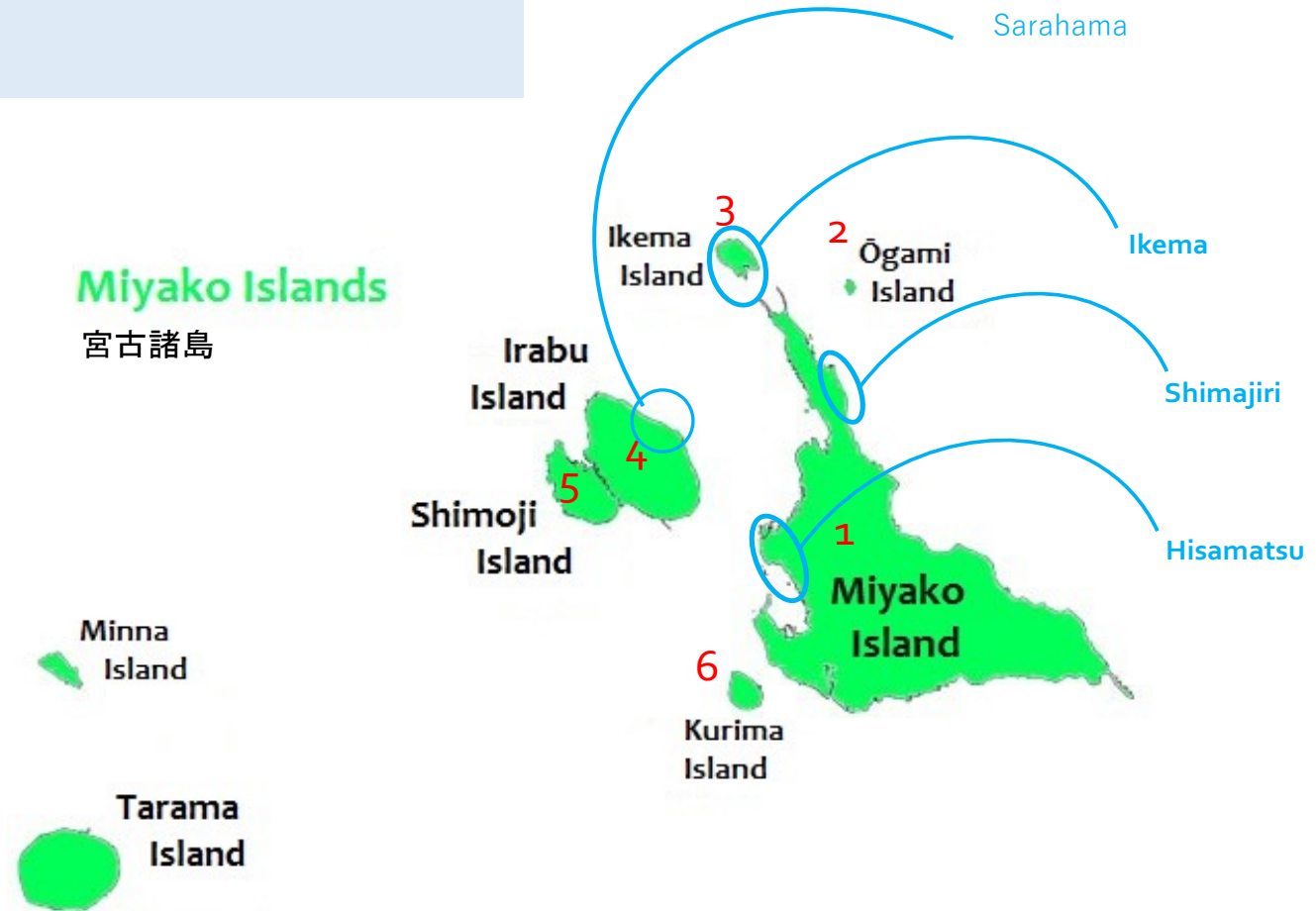
21世紀の消滅危機言語は、明治期には家庭や集落で日常で話されていた言語であった。

1.2 フィールドワークから見えてきた 宮古語の言語継承に関わる課題

フィールドワーク

(2012年～現在に至る)

- ミクロ（個人）とマクロ（社会）の複数の言語の現象を把握する。特に先行研究がないので、これを同時進行で行わなければならない。
- 10年間で、久松集落、島尻集落、池間島の集落、伊良部島の佐良浜集落に広げてフィールドワークを行なった。



Source: Modifying Creative Commons's map by Fujita-Round

昭和40年3月末	2,401	平成6年3月末	941
昭和41年3月末	2,384	平成7年3月末	918
昭和42年3月末	2,370	平成8年3月末	910
昭和43年3月末	2,123	平成9年3月末	893
昭和44年3月末	2,074	平成10年3月末	867
昭和45年3月末	2,012	平成11年3月末	853
昭和46年3月末	1,920	平成12年3月末	844
昭和47年3月末	1,804	平成13年3月末	815
昭和48年3月末	1,817	平成14年3月末	807
昭和49年3月末	1,746	平成15年3月末	773
昭和50年3月末	1,708	平成16年3月末	768
昭和51年3月末	1,639	平成17年3月末	763
昭和52年3月末	1,567	平成18年3月末	757
昭和53年3月末	1,509	平成19年3月末	774
昭和54年3月末	1,471	平成20年3月末	745
昭和55年3月末	1,395	平成21年3月末	731
昭和56年3月末	1,350	平成22年3月末	717
昭和57年3月末	1,329	平成23年3月末	704
昭和58年3月末	1,269	平成24年3月末	703
昭和59年3月末	1,208	平成25年3月末	680
昭和60年3月末	1,172	平成26年3月末	672
昭和61年3月末	1,127	平成27年3月末	647
昭和62年3月末	1,092	平成28年3月末	611
昭和63年3月末	1,053	平成29年3月末	598
平成1年3月末	996	平成30年3月末	585
平成2年3月末	969	平成31年3月末	563
平成3年3月末	944	令和2年3月末	536
平成4年3月末	921	令和3年3月末	517
平成5年3月末	922		

宮古語が直面している現実Linguistic realities

20世紀の近代化後の社会変動と人口変動

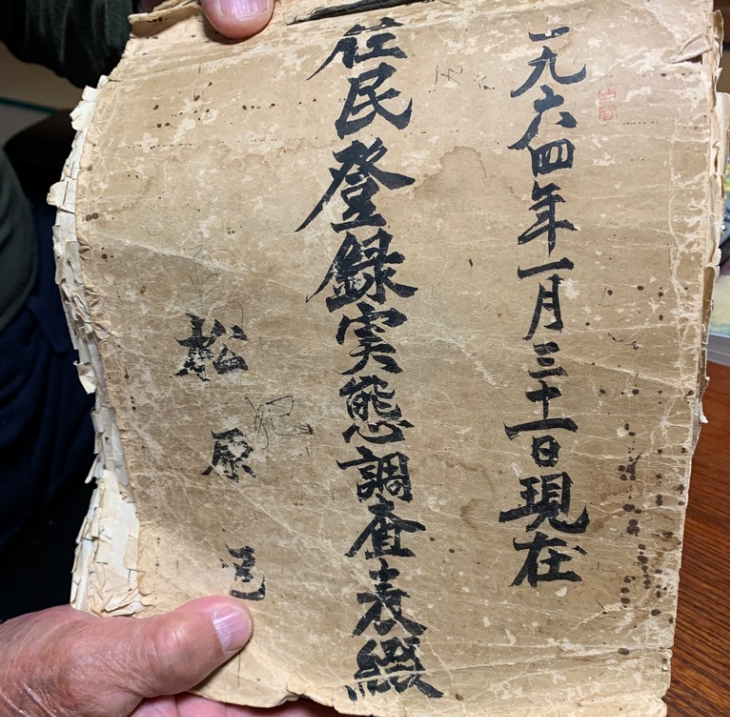
例) 宮古島市池間島の人口変動

- 1965年3月末（昭和40年）から2021年3月末の56年間で人口は4分の1に。

- 「ことば」を話す人の母数の変化

- みゃーくふつ（宮古語）の日常生活への影響





写真は筆者の主要インフォーマントで、左から95歳、94歳、96歳
2021年11月26日・27日に筆者が撮影

言語シフトが起きる language shift

例) 宮古島市久松

57年前の1964年には、

- ・家庭内言語（家族全員がみゃーくふつを使用する）

2022年現在では、

- ・家庭内言語（家族全員は日本語を使用する、みゃーくふつを「流暢に話す話者」はほぼ80歳以上、50歳以上は「理解できるが流暢に話さない話者」）



2 研究方法論：研究デザインと研究成果の思考錯誤

(1) フィールドワーク調査・エスノグラフィー研究

箕浦（2010）バイリンガルのアイデンティティ研究

本質主義（論理実証主義）や構築主義（社会構成主義）と言われているメタレベルの論議が研究という営為にどのような違いを生じさせるのか。

研究方法論	存在論(ontology)、認識論(epistemology)の捉え方
	論理実証アプローチ、解釈的アプローチ、批判的アプローチ
研究方法	データをどのように集めるか

- 構築主義にたち、認識論として「主観」を認め、解釈的アプローチで行う研究
- 人間を相手に研究を行うので倫理的にも、細心の注意を払い、アクション・リサーチに至っては、「協働」を念頭に、また、研究データを一方的にではなく、研究成果を相手にいかなる形でも還元をする。

(2) 社会言語学のアングル：

① グローバリゼーションや言語の多様性の中での言語継承

Biligualism／multilingualism

- Bilingualism as a **social approach**
(Heller 2007)
- **Multilingual turn**
(May 2014)
- **Translanguaging** as Transformation
(Moore, Bradley and Simpson 2020)

Ethnography in Sociolinguistics

- Linguistic Ethnography
(Rampton Maybin, and Roberts 2015)
- The Routledge Handbook of Linguistic Ethnography
(Tusting 2020)

Speaker's identity

- From native speakers to “**new speakers**”
(O'Rourke & Pujolar 2013)

②バイリンガリズム研究研究者としてのポジショニング：

Fujita-Round & Maher (2017)日本のマルチリンガリズム Multilingualism in Japan

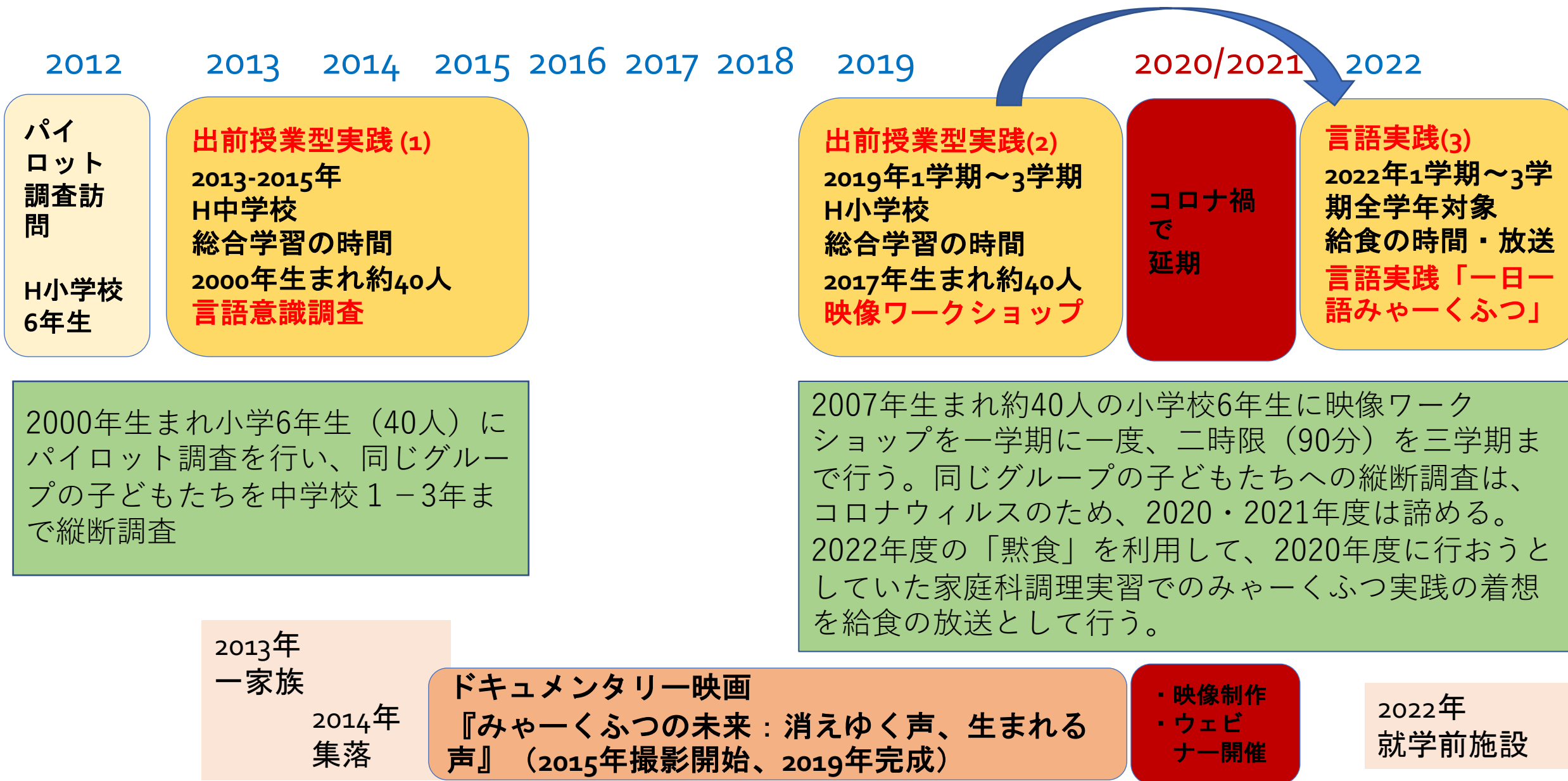
- 1) **先住民言語のアイヌ語と琉球王国時代からの琉球諸語**
- 2) 19世紀から日本に移住をしたオールドカマーの母語である朝鮮語/韓国語、中国語
- 3) 1990年改定入国管理法に伴い移住した、日系人を中心としたニューカマーの母語であるポルトガル語やスペイン語
- 4) 非漢字圏のニューカマー移民の母語であるフィリピン語やネパール語等
- 5) 書記言語でも音声言語でもない「手話言語」の日本手話
- 6) 第二言語としての日本語教育

21世紀の日本社会では、上記のように「日本語」以外の言語も使用されている。日本語は社会言語ではあるが、日本社会には、日本語の単一言語のみではなく、歴史的に見ても**言語の多様性**が存在してきた。

(3) 研究デザイン：子ども期のバイリンガリズム

- 宮古語（消滅危機言語）と日本語（社会言語）のバイリンガリズムの研究
- 研究対象：子ども期
 - 宮古語の場合、アイデンティティが確立すると考えられる小学校高学年から中学生（箕浦 2003）を対象にした。
 - De Houwer(2021), 中島（2001）言語形成過程のライフステージ：1）乳幼児期（～2歳）、2）初期子ども期（～6歳）、3）中期子ども期（～11歳位）
- 縦断的調査（longitudinal research）
 - 縦断的調査が可能かどうか、事前にフィールドワークを行い、参与観察やパイロット調査で確かめる。子どもの言語発達調査で使われる研究方法。

藤田ラウンド宮古島でのバイリンガル教育実践タイムライン



3 言語実践 (language practices)としての 「一日一語みゃーくふつ」



3.1 学校という言語実践の現場

宮古島市立H中学校

- 全学年1 - 3学年、各2クラス = 6クラス
- 在校生数**150**名（2021年5月1日時点）
（1年生40名、2年生56名、3年生54名）

10月の運動会で久松集落の**伝統芸能**演目

- （久松青年会から卒業生が中学生に指導）
 - 久松の獅子舞
 - 久松五勇士
- 共同実践者の国語教諭S先生は日本語と宮古語のバイリンガル話者

3.2 給食語彙をみゃーくふつで： 言語実践プログラム「一日一語みゃーくふつ」

- 給食の放送アナウンスに加えて、みゃーくふつを紹介する試み。
- 背景：コロナ禍の給食の時間において、久松中学校では給食の時間は「黙食」を推奨し、学校給食共同調理場栄養士による献立紹介を行っていると、藤田ラウンドが国語教諭のS先生から伺う。
- S先生の着想で、国語科と家庭科で組んで、調理実習の材料をみゃーくふつで教えたら面白いということを知り、藤田ラウンドが給食のアナウンスの「聴く」時間を利用した「一日一語みゃーくふつ」を提案。

5月30日

むつまっす°

餅米



1) 事前の準備：給食センターからの献立表確認

令和4年

6月 の予定献立表



※材料・天候によって献立を変更することがあります。

※児童生徒の給食費(小学校4200円、中学校4600円)は市が負担しています。



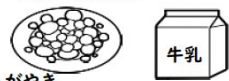
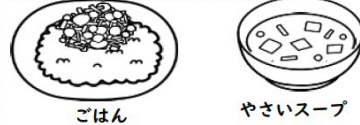
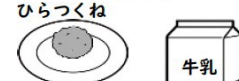
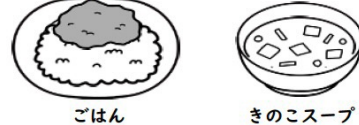
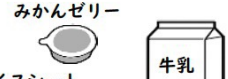
宮古島市立平良学校給食共同調理場

TEL: 72-4241

FAX: 72-3074

食品群	体内での役割
あかの食品	血やにく、骨をつくる
黄の食品	働く力や体温となる
緑の食品	体の調子をととのえる

学校給食の 栄養基準量	C=エネルギー	P=たんぱく質
小学校	650	21.1~32.3
中学校	830	27.0~41.5

こ ん だ て	が っ につ ち は く ち けんこうしゅうかん ◇6月4～10日は歯と口の健康週間◇		1(水)	2(木)	3(金)	
	しかけんしん けっか 歯科検診の結果はどうでしたか？ は た もの た たいせつ 歯は食べ物を食べるためにとても大切なものです。 しょくご はみが ふだん ちかした おい 食後の歯磨きや普段からかむ力を鍛えることが、美味し たの しょくじ く楽しく食事ができるコツです。 ていねいはみが しょくじ か 丁寧な歯磨きや、食事によく噛むことを こころ 心がけましょう。		 	 ぶたのしょうがやき (ごはんのうえにのせてたべてください)  ごはん やさいスープ	 うちなーやきそば だいこんうめかつおあえ 	 もずくどん  ごはん きのごスープ
	ぶたにく、だいず、ぎゅうにゅう		ちくわ、ぶたにく、かつおぶし、はつがげんまいりち らつくね、ぎゅうにゅう	もずく、とりにく、くるまふとりにくのナゲット、ぎゅう にゅう		
	じゃがいも、しらたま、さとう、あぶら、こめ		さとう、あぶら、おきなわそば	てんぷん、さとう、あぶら、こめ		
	セロリ、たまねぎ、にんじん、みかん、パイン、もも、え のき、しめじ、アロエ、ナタデココ、しょうが、こまつな		キャベツ、きゅうり、だいこん、たまねぎ、にら、にん じん、ほうれんそう、にんにく	たまねぎ、とうがん、にんじん、えのき、しいたけ、しめ じ、まいたけ、コーン、しょうが、こまつな、えだまめ		
あか き みどり 小学校 中学校	C 610 P 21.1 F 18.3 C 749 P 25.4 F 21.6		C 529 P 26 F 21.6 C 611 P 30 F 23.4	C 579 P 24.7 F 17.6 C 725 P 30.7 F 21.9		
こ ん だ て	6(月)	7(火)	8(水)	9(木)	10(金)	
	 オムライスシート (チキンライスのうえにのせてください)  チキンライス ほうれんそうの	 かぼちゃとさつまい もコロッケ  こくとうパン チキンとひよこま めのスープ	 わふうにくだんご 	 きのこのわふうスパゲティ  ごぼうとささみ	 オレンジ  まぐろやわらかカツ	

2) 事前の準備：給食センターからの放送原稿確認

令和4年6月 放送原稿

みなさん、こんにちは。今日のこんだては(その日のこんだてをよみあげる)です。

血や肉、骨をつくる赤の食品は、(赤の食品を読み上げる)。

体のエネルギーのもとになる黄色の食品は、(黄の食品をよみあげる)。

体の調子を整えるみどりの食品は、(みどりの食品をよみあげる)・・・です



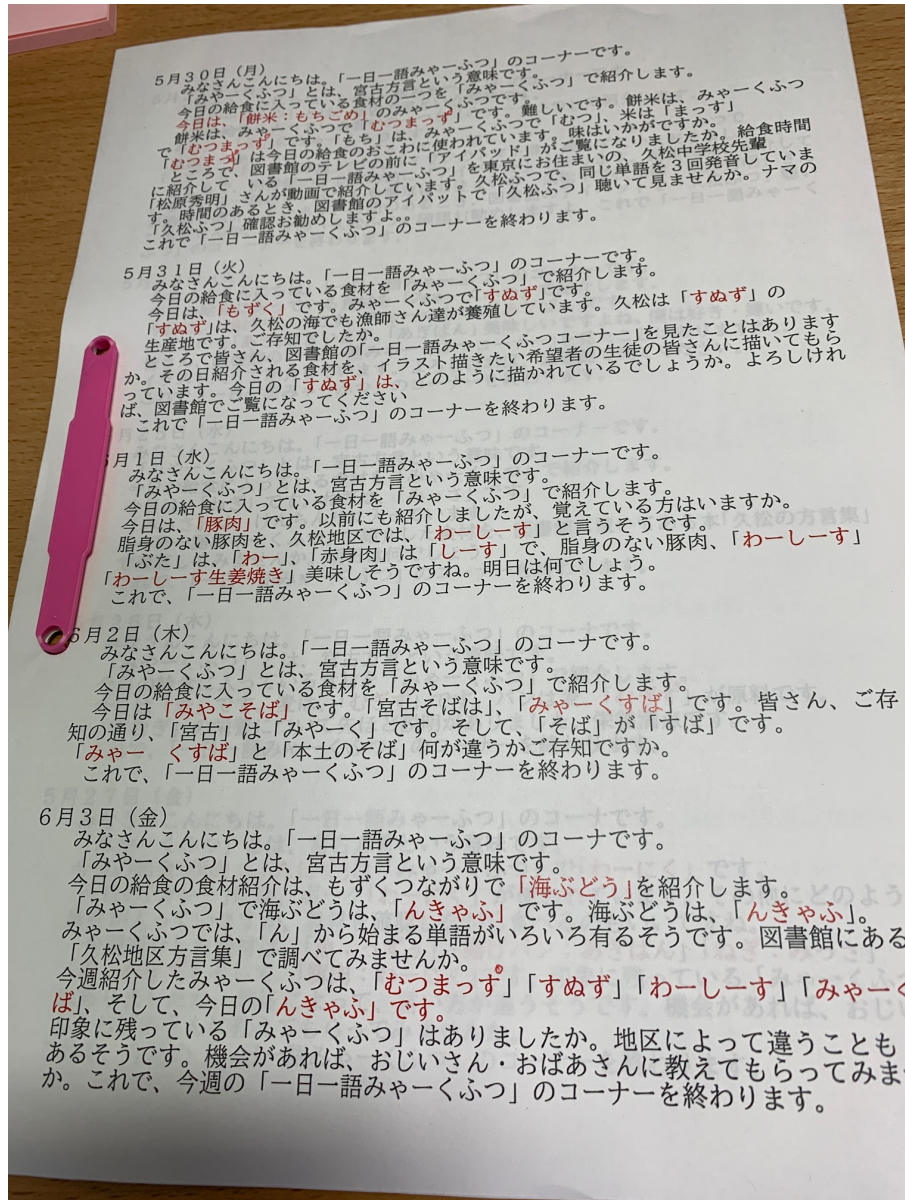
1日(水)	きょう しょうがや はい ぶたにく はなし ぶたにく わたしたちが 今日(きょう)は生姜焼き(しょうがや)に入(はい)っている豚肉(ぶたにく)についてお話し(はなし)します。豚肉(ぶたにく)には、私達(わたしたち)が食べたものをエネルギー(えんぷじ)に変えるのを助けるビタミンB1(か たす)が豊富(ほうふ)に含まれており、その量(りょう)はお肉(にく)だけでなく、あらゆる食材(しょくざい)の中(なか)でもトップクラス(たす)です。沖縄(おきなわ)では昔(むかし)から豚肉(ぶたにく)がよく食べられており、「爪(つめ)と鳴き声(ごい)以外は(い)全て(すべ)た食べる」と言(い)われるほどに、沖縄(おきなわ)の人は豚肉(ぶたにく)を無駄(むだ)なく活用(かつよう)してきました。沖縄(おきなわ)となじみ深い豚肉(ぶたにく)をおいしくいただきましょう。
2日(木)	きょう しゅしゅく おきなわ めん つか や にほん 今日(きょう)の主食(しゅしゅく)は沖縄(おきなわ)そばの麺(めん)を使った焼(や)きそば(つか)です。日本(にほん)でそば(そば)といえ(い)ば粉(こな)を使った黒(くろ)っぽくほそなが(ほそなが)めん(めん) いっぱんてき(いっぱんてき)ですが、沖縄(おきなわ)そば(そば)は小麦粉(こむぎこ)に(すい)かん水(すい)や木灰(もくかい)を加(くわ)える黄色(きいろ)く太(ふと)めの麺(めん)が特徴(とくちょう)です。そば(そば)という名前(なまえ)ですが、作り方(つく)や色(いろ)はラーメン(らーめん)の中華めん(ちゅうか)に近い(ちか)ですよね。 また、焼(や)きそば(そば)は一般的(いっぱんてき)にはソース(つか)を使い味付(あじつ)けをす(す)ることが多い(おお)ですが、沖縄(おきなわ)ではケチャップ(つか)や(や) ゆうめい(ゆうめい) おきな(おきな) しょう(しょう)ぶん(ぶん)か(か) あじ(あじ) 使う(つかう)焼(や)きそば(そば)が有名(ゆうめい)です。沖縄(おきなわ)独自の食文化(しょくぶんか)を味(あじ)わいな(い)がら(い)だき(ま)しょう。
3日(金)	きょう 今日(きょう)のきのこ(きのこ)スープ(すーぷ)にはぶなしめじ(ぶなしめじ)、えのきたけ(えのきたけ)、まいたけ(まいたけ)の3種類(しゅるい)のきのこ(きのこ)を使(つか)っています。きのこ(きのこ)は日本(にほん)だけでも4000~5000種類(しゅるい)ある(あ)るとい(い)われ、その中(なか)でも食べられるきのこ(きのこ)は100~200種類(しゅるい)とい(い)われています。普段(ふだん)お店(みせ)では何種類(なんしゅるい)のきのこ(きのこ)が並(なら)んでいる(い)る(い)しょう(しょう)か。きのこ(きのこ)は栄(えい)養(よう)豊(ほう)富(ふ)な食(た)べ物(もの)、おなか(おなか)の調子(ちょうし)を整(とと)える食(しょく)物(ぶつ)纖(せん)維(い)や、骨(ほね)や歯(は)を作(つく)るのに必要(ひつよう)なビ(ビ)タ(タ)ミ(ミ)ン(ン)D(ド)やリン(リン)など(など) 沢(たく)山(さん)のビ(ビ)タ(タ)ミ(ミ)ン(ン)やミ(ミ)ネ(ネ)ラル(ラル)を(を)含(ふく)んで(い)ます。栄(えい)養(よう)た(た)っ(っ)ぷ(ぷ)り(り)のきのこ(きのこ)を食(た)べ健康(けんこう)な体(たい)を作(つく)りま(ま)しょう。
	きょう 今日(きょう)の給食(きゅうしょく)はオムライス(オムライス)です。みなさん(みなさん)はオムライス(オムライス)が日本(にほん)発祥(はつしょう)の食(た)べ物(もの)だ(だ)と知(し)って(い)ました(か)か?

15日(水)	きょう 今日(きょう)は朝(あさ)ごはん(ごはん)についてお話し(はなし)します。寝(ね)ている間(かん)も体(たい)はエ(エ)ネ(ネ)ル(ル)ギー(ギー)を使(つか)っている(い)ので、起(お)きた時(とき)には一日(いちにち)活動(かつどう)する(する)ためのエ(エ)ネ(ネ)ル(ル)ギー(ギー)が不(ふ)足(そく)している(い)ので、朝(あさ)ごはん(ごはん)を食(た)べる(た)ことでエ(エ)ネ(ネ)ル(ル)ギー(ギー)を補(ほ)充(じゅう)して(い)ます。また、朝(あさ)ごはん(ごはん)をよ(よ)く噛(か)んで胃(い)に食(た)べた(た)もの(もの)が入(はい)る(る)こと(こと)で体(たい)も目(め)覚(さ)めます。朝(あさ)ごはん(ごはん)を(を)し(し)っ(っ)か(か)り食(た)べる(た)時間(じかん)は(は)とれ(れ)て(て)いま(いま)す(す)か?早(はや)寝(ね)早(はや)起(き)きも朝(あさ)ごはん(ごはん)と(と)同(どう)じ(じ)く大(だい)事(じ)な(な)こと(こと)です。 せいかつ(せいかつ) と(と)の(の) あ(あ)さ(さ) た(た) と(と)う(う)こう(こう) 生活(せいかつ)リズム(リズム)を整(とと)えて、し(し)っ(っ)か(か)り朝(あさ)ごはん(ごはん)を食(た)べて(て)から登(とう)校(こう)しま(ま)しょう。
16日(木)	きょう 今日(きょう)はポ(ポ)タ(タ)ージュ(ージュ)に人(にん)参(じん)を使(つか)っています。人(にん)参(じん)は彩(いろ)りがよ(よ)く栄(えい)養(よう)価(か)も高(たか)い(い)ため、給食(きゅうしょく)でよ(よ)く登(とう)場(じょう)する野菜(やさい)の(の)一(ひと)つ(つ)です(す)ね。よ(よ)く目(め)にする人(にん)参(じん)は多(おほ)くがオ(オ)レ(レ)ン(ン)ジ(ジ)色(いろ)ですが、黄(きいろ)色(いろ)や紫(むらさき)などカラフル(カラフル)なもの(もの)もあ(あ)ります。色(いろ)の他(ほか)にもコ(こ)ロ(ロ)コ(コ)とした丸(まる)いもの(もの)や細(ほそ)ながいもの(もの)もあ(あ)ります。人(にん)参(じん)にはビ(ビ)タ(タ)ミ(ミ)ン(ン)A(エー)とい(い)う栄(えい)養(よう)素(そ)が(が)多(おほ)く含(ふく)ま(ま)れて(て)おり、目(め)の疲(つか)れ(れ)をと(と)ったり、皮(ひ)膚(ふ)を健康(けんこう)に保(たも)つ働(はたら)き(き)があ(あ)ります。元(げん)氣(き)に毎(まい)日(にち)を送(おく)る(る)ため(ため)にもお(お)い(い)しく(く)い(い)だ(だ)き(ま)しょう。
17日(金)	きょう 今日(きょう)は黒(くろ)糖(とう)についてお話し(はなし)します。今日(きょう)の給食(きゅうしょく)に出(い)で(で)いる黒(くろ)糖(とう)ビ(ビ)ーンズ(ーンズ)にも使(つか)わ(わ)れて(て)いる黒(くろ)糖(とう)ですが、しろざとう(しろざとう) な(な)に(に) ち(ち)が(が) しろざとう(しろざとう) は(は)さ(さ)と(と)う(う)き(き)び(び)な(な)の(の)し(し)ぼ(ぼ)り(り)汁(じゅう)から不(ふ)純(じゆん)物(ぶつ)を取(と)り除(ぞ)いて作(つく)られ(れ)ま(ま)す(す)が、黒(くろ)糖(とう)は(は)さ(さ)と(と)う(う)き(き)び(び)の(の)し(し)ぼ(ぼ)り(り)汁(じゅう)から水(すい)分(ぶん)だけ(だけ)を飛(と)ば(ば)して作(つく)って(て)いま(いま)す(す)。そのた(た)め(め)黒(くろ)糖(とう)には栄(えい)養(よう)素(そ)が(が)残(のこ)って(て)おり、白(しろ)砂(ざ)糖(とう)と(と)比(くら)べてミ(ミ)ネ(ネ)ラル(ラル)が(が)豊(ほう)富(ふ)です。だ(だ)ん(だ)ん暑(あつ)く(く)なり汗(あせ)をよ(よ)くか(か)くこれ(これ)からの季(き)節(せつ)に(に)ぴ(ぴ)た(た)り(り)の食(た)べ物(もの)です(す)ね。
	きょう 今日(きょう)はグ(グ)レー(レー)プ(プ)フ(フ)ル(ル)ーツ(ーツ)についてお話し(はなし)します。グ(グ)レー(レー)プ(プ)フ(フ)ル(ル)ーツ(ーツ)はブ(み)ド(め)ウ(いろ)とは見(みた)目(め)も色(いろ)も全(ま)く違(ちが)う(う)です(す)。

3) 事前の準備：藤田ラウンドから作成みゃーくふつ表

	2022年6月 久松中学校給食献立に基づくみゃーくふつ提案リスト					
	参考資料：1) 宮古島市立平良学校就職共同調理場プリント 2) 監修：久松・久貝在住の與那覇チヨさんと與那覇初江さん					
		新しい語彙		11		
*		復習語彙		11		
		合計		22		
			日本語	みゃーくふつ	復習	備考
1	6月	1日	水	豚の赤身	わーしーす	*
2		2日	木	宮古そば	みゅーくすば	
3		3日	金	海ぶどう	んきゃふ	すぬず（もずく）
4		6日	月	卵	とうなか	*
5		7日	火	かぼちゃ	かぼちゃ	* スーパーで買えるのはカボチャで、昔はその何倍かの大きさのなんこうを作っていたそうです。
6		8日	水	ニンニク	びいす	*
7		9日	木	ごぼう	ぐんぼう	
8		10日	金	よく嚙（か）んで食べる	ちゅーく かみふあい	（フレーズ）よく嚙んで食べなさいという時に使った。
9		13日	月	小豆（あずき）	あかまみい	昔は十五夜の時に赤飯を炊いてお祝いをしたので「十五夜まみい」とも言ったそうです（チヨさん）
10		14日	火	魚	っずー	*
11		15日	水	早起きは三文の徳	あさにがらあ うやき ゆうにがらあ がき°	（ことわざ）朝早く起きるとお金持ちに、夜更かしすると食いしん坊にということわざです。
12		16日	木	人参	きーざ	*
13		17日	金	砂糖	さた	
14		20日	月	みかん	ふにす	* 5月は「ふぬー」と言いましたが、久松では「ふにす°」ともいうそうです。
15		21日	火	手を洗う	ていーゆあらい	（フレーズ）
16		22日	水	健康が一番	がんじゅうさいちばん	（ことわざ）自分がまずは健康で力を出せるようにすることが大事だという意味です。

4) 事前の準備：S先生作成放送原稿



- 4月の時点では、一言であったが、子どもたちの質問やコメントなどから、5月、6月に入り、少しずつ長くなり、復習もするようになった。

5) 事前の準備：図書館：当日紹介のイラスト掲示「一日一語みゃーくふつコーナー」



6) 本番：給食時間：放送原稿を読む：保健・給食専門委員の生徒の様子

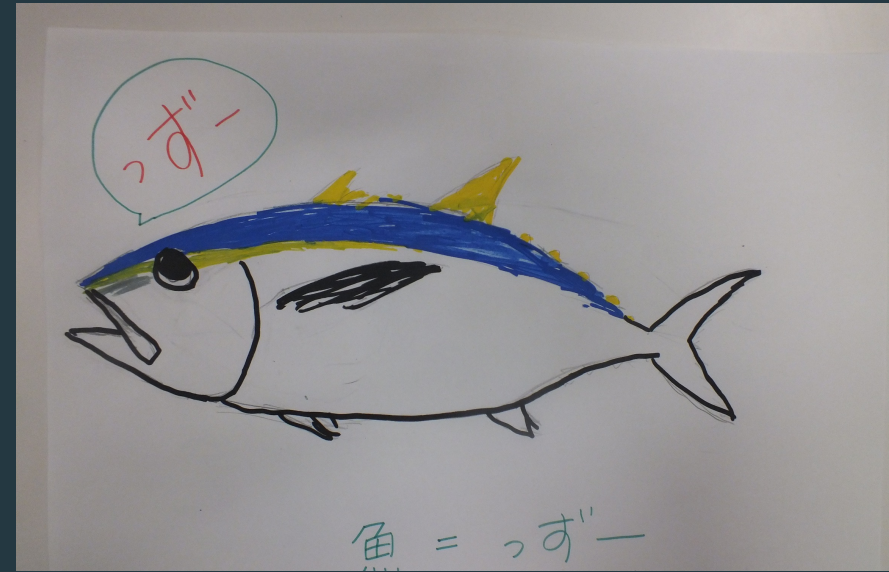
放送中の中学生の写真

7) 事後の活動：図書館： アイパッドで発音を確認する生徒

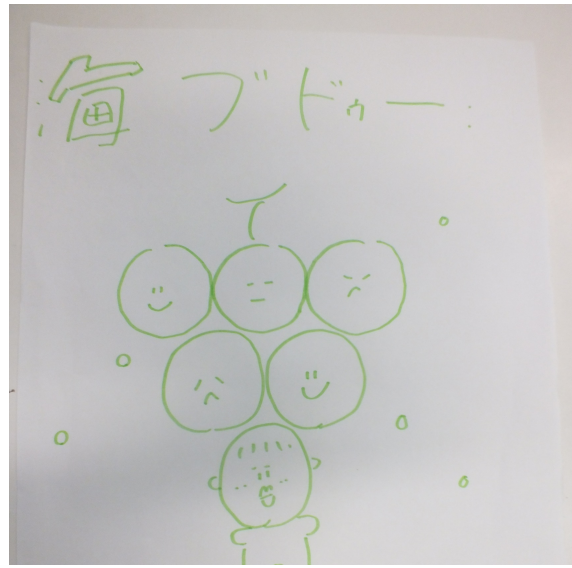


藤田ラウンド幸世「学校での宮古語継承課題に取り組む」

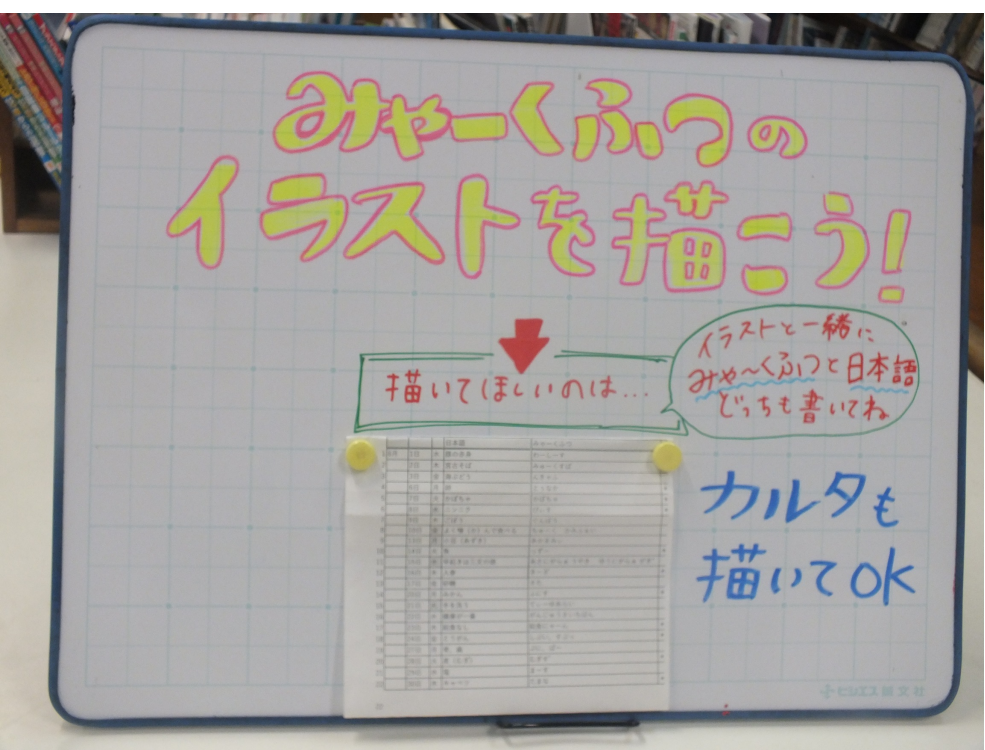
久松中学校卒業生で東京在住、久松出身、
50代松原さんの発音レッスン動画（Youtube有）



8) 事後の活動：図書館：過日のみやーふつイラスト



9) 事後の活動：みゃーくふつカルタ作成



図書館司書の先生がアイディアを出し、呼びかけてくれる

10) 家庭学習「GSRノート」1年生の久松ふつ調べ学習

日々の行動があなたの未来を創る！

5月25日(土曜日)

校時	教科	評価	先生からの連絡事項・反省	
1	理	A		
2	国	A		
3	体	A		
4	音	A	家庭学習時間の開始・終了時間	家庭学習時間
5	体	A	開始時間: 16時 10分	〇時間 35分
6	学	A	終了時間: 16時 45分	就寝時間: 22時 30分

今日の家庭学習

課題

めあて シャーくふつを覚える。

アークドーズ=歌が上手 アークビーズ=歌が下手

ア-サ=あおさ ア-マ=祖母 アイジャー=雨に

ぬれた アウツァ=油 アハイル=赤色

アカサ=私生児 アカンカガ=赤ちゃん

アカンカダ=赤土 アカ-アカ-=痛い 痛い

アカダ=彼方 アカツ=血 アカサ=しそ

アカン=開かない アシ=汁 アスキ=歩く

継続は力なり

アリ コーコー=あつり アロイ=大変

イーギ=汚い イウ=重い

イキ=汚い イスカキス=石垣

イスミ=盗め イツカミ=何時まで

イッシュ=一升 イッシン=一銭

イスウツミ=石を積みなさい。 イツティ=五年

イツヌピストウ=五人 イツバン=一番

イツマイ=いつも。 イツフ=何と

イフカラ=何匹 イビル=植え株

イシイ=小さい イシ=夢

イツキス=何か月 イフツ=いつ

イミズ=急中 ウイカ=この人が

ウイカジ=北風 ウインクイ=これ以上

<振り返り>

シャーくふつを覚えてたいです。



ふつ。シャーくふつに 関心 が ある。おれは。 まいり地、やらび。ふからさ。ちねみに。何を調べま (おれは) (嬉しいぞ)。どちらの地区の方ですか。おれはまい

GSRノート



冊目

年 組 氏名

久松中学校特製、家庭学習ノート

Goyushi (久松) 五勇士
Study 学習
Routine ルーティーン

4 言語実践「一日一語みゃーくふつ」のまとめ

<子どもへの働きかけ・そこでの気づきと学び>

- 授業の中で教えようと考えると難しいが、一日一語でも、継続をすることで、子どもたちの中にその一語一語が蓄積され、増えているように思われる。一学期の9週間を終えた段階では、子どもたちがみゃーくふつを通して、多面的な気づきを得ていることが語彙調査から伺えた。
- 実践の蓄積の中で、子どもたちの言語に対する意識も変化している。流行りことばとして、使ったり、自分たちの生活に取り入れることが学校内で先生方の耳に入ることもあった。
- 発音が難しいこともあり、そこにとらわれていると、正確さを求めてしまう。特に、宮古語が聞ける・話せる先生方にとっては、発音がとても気になるという感想をもらう。初期段階として、まず、子どもたち自身が放送を読む立場となり、友人や先輩方が一生懸命に、上手ではなくても読んでいる姿を放送を通して伝えるというスモールステップから始めると考えればいいのではないだろうか。逆に、自分たちと同様に上手ではない発音ということで、自分でもできるというハードルが下がるということも、子どもたちの感想にあった。＝発音にこだわる子どもや大人に対しては、5月からIPADを使い、久松中学卒業生で50代の方の久松ふつ（宮古語の久松方言）が聴けるようにした。
- 書記言語がなく、揺れはあるものの、小学生と違い、中学生の場合は、遊びに来た図書室で単語カードを「読む」こともできる。
- 子どもたちの気づきに寄り添い、語彙を選んだり、語彙の幅（名詞から形容詞に）に2学期に試みている。

5 学校での宮古語継承の課題（1）

- カジュアルな「ことば」の学びから教育現場の動的な発展を起こす
= 教育現場の教諭との協働（コラボレーション）
- 授業外の活動で、既存のジャンルで、みゃーくふつを取り入れる
= 給食の放送、献立表・放送原稿
- 学校内での協働：先生方の理解と協力
= 協力体制づくり、信頼関係
- 教育現場を支える環境づくり（専門家として研究者ができる知識提供）
= 学校と地域を熟知し、その上で何が必要かを提案し、環境を整える
- 給食語彙をみゃーくふつでという発想は、内容言語統合型学習（CLIL = Content and Language Integrated Learning）から来ている。
- 研究者としての認識は、宮古島の文脈では、言語の再活性化とは、**学校**を入り口にして、**地域**に、**家庭**にみゃーくふつを戻すことだと考えている。そのために、何ができるかが今後の研究課題である。

5 学校での宮古語継承の課題（2）

- 消滅危機言語として宮古語も話者も高齢者となり、その高齢者たちは、方言札や学校教育で「家」では使わないようにしていた世代である。
- 家の中で言語継承 language transmissionが行われていない現実を前に、学校での「言語の再活性化」の可能性はあるだろうか。
- バイリンガル教育の中に、「継承語教育」という特定の研究分野もある。カナダで1970年代に始まったイマージョン教育である。この文脈では、英語とフランス語の二言語が対象となっていることと、両言語とも書記言語が確立していることから、学校においてもそれぞれの教材が豊富にある。国外の学校教育の現場で行われている、消滅危機言語と現地の公的言語のバイリンガル教授法としてのイマージョン教育から学べることはある。

5 学校での宮古語継承の課題（3）

次世代の話者を育てるという視点

- 再活性化という日本語に置き換えた時に、「再」が社会言語学的にそぐわないのではないかという気持ちがある。
- 「再」というと、「古く、美しい、昔のままのことば」を再現するというニュアンスに取られる可能性がある。
- では、どのような「新たな」話しことばの活性化を目指すのか。

Maher (2005) the principle of Cool

宮古語はカッコいい、宮古を誇りに思える自己肯定感を醸し出す

References:

- Austin, P. & Sallabank, J. (2011) *Cambridge Handbook of Endangered Languages*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Bloomfield, L. (1933) *Language*. New York: Holt.
- Fujita-Round, S. (2022c in press) 'Fujita-Round, S. (2022 in press) 'Language revitalization and the classroom: Video Workshops at an elementary school in Miyakojima', in *Languages*, MDPI.
- Fujita-Round, S. (2022a) 'Language communities of the Southern Ryukyus' in J.C. Maher (ed.) *Language Communities in Japan*. Oxford: Oxford University Press.
- Fujita-Round, S. (2019) 'Bilingualism and Bilingual Education in Japan' in P. Heinrich & Y. Ohara (eds.) *Routledge Handbook of Japanese Sociolinguistics*. Abingdon, Oxen: Routledge, 170-183.
- Fujita-Round & Maher (2017) 'Language policy and education in Japan' in McCarty and May (eds.) *The Encyclopedia of Language and Education, Volume 1*. NY: Springer. Chapter 35.
- Ishihara, M., Miyahira, K., der Lubbe, G., Heinrich, P. (2019) 'Ryukyuan sociolinguistics' in P. Heinrich & Y. Ohara (eds.) *Routledge Handbook of Japanese Sociolinguistics*. Abingdon, Oxen: Routledge, 25-42.

References:

- Maher, J.C. (2005) 'Metroethnicity, language, and the principle of Cool' in *International Journal of the Sociology of Language*, 175/176, 83-102.
- May, S. (2014) 'Introducing the "Multilingual Turn"'. In S. May (ed). *The Multilingual Turn*. NY: Taylor & Francis.
- Moseley, C. (2012) The UNESCO Atlas of the World's Languages in Danger: Context and Process. <http://www.dspace.cam.ac.uk/handle/1810/243434>
- Rampton, B., Maybin, J., & Roberts, C. (2015) 'Theory and method in Linguistic Ethnography' in J. Snell, S. Shaw, & F. Copland (eds.) *Linguistic Ethnography*. Hasingstoke, Hampshire: Palgrave Macmillan, 15-50.
- Smits, G. (1999) *Visions of Ryukyu: Identity and Ideology in Early Modern Thought and Politics*. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Tusting, K. (2020) 'General Introduction' in K. Tusting (ed.) *The Routledge Handbook of Linguistic Ethnography*. Abington, Oxon: Routledge, 1-9.
- UNESCO (2010) *Atlas of the World's Languages in Danger* <http://www.unesco.org/culture/languages-atlas/> (現在、再編中)

日本語参考文献：

- 木部暢子（2019）「『いま何もしなければ』なくなってしまう」『ことばの波止場』 Vol. 5 (2019年3月発行),
<https://kotobaken.jp/digest/05/d-05-02/>
- 箕浦康子（2010）「本質主義と構築主義：バイリンガルのアイデンティティ研究をするために」『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』（6）, 1-22.



本日の研究会昼休みに上映

ドキュメンタリー映画

『みゃーくふつの未来：消えゆく声、生まれる声』

[The Future of Myaakufutsu: Vanishing Voices, Emerging Voices]

2019 | 48' | Japan

制作：藤田ラウンド幸世・監督：服部かつゆき（映像アーティスト）

謝辞：JSPS科研費15K2659/18K00695

